

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392700227		
法人名	社会福祉法人小国町社会福祉協議会		
事業所名	グループホーム森園		
所在地	熊本県阿蘇郡南小国町赤馬場3366番地		
自己評価作成日	令和4年2月17日	評価結果市町村受理日	令和4年5月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和4年3月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

アットホームな雰囲気作りを行いご利用者様を全職員で見守り不穏があれば声掛けを行い話を傾聴しご利用者様に寄り添った介護をしています。全職員がケアに関して意見を伝える事が出来、以前の形にとらわれることなく利用者様にあったケアの提供が出来るようになってきました。Zoomを活用し職員のスキルアップを図る研修に参加したり、全体会議で研修会を開催する事で自信が持てるようになってきました。地域活動に関しては職員の方から出向き関係を継続できるように心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山里に建つホームは開設時より地域との関係性を大切に運営しており、小さな町のコミュニティが入居者の暮らしを支えている。馴染みの医療機関や信頼おける医師、行きつけの商店、古くからの習わしなど、地域ならではの暮らしが継続され入居者の拠り所でもある。地域との合同避難訓練はホームの庭を集合場所とし、コロナ禍以前から人々と有事に備えており、昨今の自然災害の被害状況を鑑み、水害時の訓練にも期待が寄せられる。殆どの入居者・家族がホームを最終の場と考えており、今後も一日一日の重みを共有し、変わらぬ支援に努められることが期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初からの介護理念を玄関や記録台の前に掲示し職員間で共有を図り、ご利用者やそのご家族・職員の円滑な人間関係の形成に心がけている。	開設時からの理念は職員の中にしっかりと浸透しており、ケアの規範としてホーム運営を支えてきたが、今回法人の他事業所とともに、新しい理念に変更している。入居者を主体とする介護理念や職員の心得を5項目に集約した“5つの心得”をこれからの入居者支援に反映したいとしている。	新しい理念は、今後運営推進会議などで家族や地域へ向け発信していかれることが期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為現在ご利用者様と地域の方たちとの交流は状況を見ながら出来る範囲内で行っている状況です。事業所で自治会の活動には感染対策に配慮しながら職員が参加させて頂き交流は続けている。	地区の自治会に加入しており、区長からの情報により清掃作業や避難訓練に参加して、地域の一員として活動している。コロナ禍の中、地域のダイチョウや桜を車窓から見学し、ふるさと訪問では自宅近くまでドライブに出かける等、入居者が慣れ親しんだ地域へ出る機会を作っている。町が発行した商品券が地域商店での買い物支援に活かされ、馴染みの人々との再会に繋がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小国郷あんしんネットワークに参加し、認知症カフェのスタッフとして参加している。また南小国町地域福祉推進委員を委託されている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度開催される会議ではサービスの状況、外部評価や職員研修、ヒヤリハットの報告を行っている。コロナ禍の面会、地域の方たちとの交流についてなど会議での意見をサービスの向上に活かせる様にしている。	運営推進会議は本年2月の書面審議での開催以外は直接開催が出来ており、行政関係や地域代表者、家族が参加している。入居者の現状報告、ヒヤリハットや事故、身体拘束の状況報告、苦情についても会議で明らかにし、参加者の意見や助言が運営に反映されている。ここ数年の豪雨災害についても関係機関へ協力を依頼している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護認定申請や制度上の不明な点や入所者様の状況など役場に出向き情報交換に取り組み、協力関係を築ける様に取り組んでいる。	運営推進会議には行政担当者や包括職員が参加しており、ホームの現状を共有して一つの課題について適切な助言が行われている。認定調査はホームで職員が対応し、行政とのメールのやり取りや相談事などには直接役所を訪れながら友好的な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社全体で年間を通じて身体拘束、虐待防止を含めたスキルアップ研修を実施しており職員の出席を促している。また、ケア会議でも身体拘束防止等各委員会からの報告を行い意見交換をしている。	職員は法人のスキルアップ研修に参加して、身体拘束や虐待防止についての認識を深め、それらを行わないケアの実践に努めている。センサーマットの使用について家族に使用目的を説明したうえで了承を得、必要の是非をその都度検討している。年1回のメンタルチェックや虐待の芽チェックリストで自己を振り返り、ケア会議時で話し合うようにしている。	入居者への言葉使いについては、時に口調が強くなるなど、不適切な対応が見られるとしている。業務に追われる中でも入居者とはゆっくりと関わり、互いを注意喚起するような関係性や課題を絞っての話し合いの機会が期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は高齢者虐待防止関連法についてスキルアップの研修会や法人内高齢福祉課、森園内でも学ぶ機会を持ち、常に注意を払い防止に努めている。日頃の介護を振り返り虐待にならないか検証している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、権利擁護に関する制度や成年後見制度について学ぶ機会を持ち必要な人には活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や、解約する場合は利用者や家族等の不安や疑問点をたずね十分な説明を行い理解、納得を図っている。また利用料に関しては説明を随時行い経済的な不安や負担など状況の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。利用者やご家族から意見や要望を引き出せるように積極的にコミュニケーションを図り話しやすい雰囲気づくりを行っている。運営推進会議でも意見や要望について伝えられるようにしている。	家族の面会方法については運営推進会議でも参加者から様々な提案が出されており、現状を見て窓越しや玄関先での面会に応じている。家族の意見は運営推進会議や電話などで聞き取り、入居者の要望には普段の関わりから収集し、支援に反映するようにしている。時には職員に買い物依頼されたりするようである。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務時に出た職員の意見や対策は直ぐに実施出来る事は実施し都度状況の確認を行うように努めている。全体会議でも共有し改善が必要な点に関しては検討を行っている。また職員とのコミュニケーションを図り意見を伝えやすい環境づくりに努めている。	職員には思ったことはその都度発言してもらい、検討したうえでできる事はすぐにも取り入れ、先ずはやってみる事としている。職員の資格取得、希望休や有休消化への対応を後押しし、働きやすい職場作りに努めている。小国郷医療福祉あんしんネットワーク会議を通じて同業者との情報交換をホーム運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の勤怠表で各職員の勤務状況を確認して。毎年、前期、後期に年間目標を立て、仕事に取り組んでいる。就業規則は見やすい所に設置し、改正等は、掲示板に表示。ケア会議において、職員の意見を聞き、できることから実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間目標と自己評価を記入した人事評価表を通じて、管理者と面談を行い各職員の実情等を把握して。スキルアップ研修のほか本年度からネット配信を利用した年間研修が可能なフォローアップ研修の機会を設けた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小国郷医療福祉あんしんネットワーク会議を開催し、小国郷等で働く医療福祉従事者が各チームに分かれて定期的に報告会を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所当初のアセスメントはもとよりご本人の困りごとや不安な事、要望に関して伝えやすい環境づくりを常に心がけ言葉かけを行っています。表情の変化にも気付くことが出来るよう職員間で情報の共有も行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の時からご家族の立場に立ち思いを理解できるように努め、ご家族の思いや要望を出しやすい関係作りを心がけている。面会の際にも必ず声掛けし話しやすい雰囲気作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時のご本人やご家族の実情や要望に応じ、今何が必要かケアマネをはじめ全職員で話し合いサービスを開始している。その都度状況を確認しながら必要な支援を行うように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が個々の力を発揮できるように職員間で情報を共有し無理のない範囲で作業やレク活動に参加し楽しんでいただく環境作りをしています。職員からの一方的なお願いでなく利用者さまからも声かけ頂ける関係づくりをしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会の際に日々の生活状況をお伝えしています。面会が出来ない状況もあり毎月の状況報告書の手紙を見直し写真をつけて報告しています。電話連絡も変化があれば行うようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が培ってきた関係や地域住民との関係が維持できるように支援している。コロナ禍の中地域行事等に参加する事が出来ませんが通院時には近所の方が声をかけてくれたり、草刈りの際に話を下さり関係が途切れない様になっている。	ホームでは地域の中の関係性を大切にしており、感染症の状況を見ながらふるさとまでのドライブや、馴染みの商店での買い物支援など入居者にゆかりの地へ出かけている。また、これまでの趣味や特技が発揮できるよう、テーブルや食器拭き、差し入れ野菜の下ごしらえなど食に関わる時間を持ったり、パズルや新聞など楽しみ事の継続に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	同町のご利用者様ばかりなので知り合いが 多く利用者同士の関係には配慮していま す。孤立しない様職員が間に入る事でトラブ ル防止も含め関係支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームで看取りを行った方のご家族との交 流もある。住み替えの方にも安心して移り住 むことが出来るように支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	利用者の日常の生活の会話からご本人の 望むこと、好きな物を察知するように心がけ ている。職員からの聞き取りも行い全職員で 共有できるようにしている。困難な場合でも 利用者本位に立って職員間で意見を出し合 いご本人の意向に近づけるよう努めてい る。	職員はリビングや居室、入浴時など1対1で入 居者とゆっくり関わりながら日頃の思いを引 き出している。意思表示が困難な方へも職員 との長年の関係性や普段の様子から推察し たり家族に意見を求めながら、本人本位にな るように対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	入所時だけでなく日々の暮らしの中で馴染 みの関係を作りながらご本人やご家族から 情報を提供いただける様努めている。把握し た内容は職員間で共有しご利用者様が生 活しやすい様にケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	日々のケアでご本人の出来る力、わかる力 を観察し職員間で情報交換を行っている。 認知症についての理解も深め日常の小さな 気づきもい易い雰囲気作りも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケア会議にて課題やケアのあり方について話し合いを行っている。ご本人の思い・ご家族の意向は面会の際など確認し、職員と意見やアイデアを出し合いながらプランにいかせるよう見直しを行っている。	本人・家族の意見を優先してケア会議で入居者の現状や課題を確認し、担当者からの意見を反映しながらプランを立案している。入居間もない方には馴染みの関係を作り、自身の思いを伝えやすい環境にすることなど、新たな場所で穏やかに生活してもらうことを目標にしている。毎月のケア会議で実践報告とプラン内容の見直しを行い、現状に必要な内容を掲げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果・気づきなど個別記録に記入している。ケアプランに沿った記録への取り組みを行っている。また法人内高齢福祉課で記録の研修会を行う機会を設けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院の同行は一箇所に関わらずその時の状況に応じて対応している。法人内で必要なときは柔軟な支援が出来るよう取り組みを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為直接施設訪問のボランティアの受け入れは中止している。コロナの状況をみながら散髪や消防訓練を実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みの医師による医療が継続して受けられるように支援している。長時間離床が難しい利用者は主治医の方から訪問診療に求められ継続的にかかりつけ医との関係が継続できるような体制が出来ている。また受診の際は看護師より日々の状況を伝え適切な医療を受けられるように支援している。臨時の通院の際は状況をご家族に連絡し説明を行っている。	これまでかかりつけ医だった方も多い公立の医療機関や近隣の医院へ看護師が中心に同行し受診支援が行われている。また、受診に出むことが困難になれば、訪問診療により継続した医療支援ができるようにしている。歯科は訪問診療で治療や口腔ケアが行われ、職員も毎食後の歯磨きを見守りや必要に応じた介助を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段から利用者様の健康に関して看護師と話し合い情報交換を行っている。利用者様の内服薬や処置についても相談し適切に対応できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中はコロナ禍により面会できない為治療の状況は連携室の看護師やソーシャルワーカーより情報を頂きながら早期退院に向け相談に努めている。あんしんネットワークに参加しており病院関係者との関係づくりも行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について事前にご家族に確認を行うようにしている。終末期のあり方についてはご家族やかかりつけ医と話し合いながら意向を確認し森園で出来る事を説明し方針を決めチームとして支援に努めている。小国郷では在宅医療サポートセンターも稼働している為ご利用者様の登録も行いスムーズに行えるようになってきている。	入居時に指針をもとにホームの取組を説明し、延命や急変時の対応についても聞き取り書面で意向を確認している。家族の殆どが可能であればホームでの最終を希望されている。今年度は4月と1月に、主治医や家族、職員の連携によりお二人の看取り支援がおこなわれている。その際、感染症の対策を施し面会の時間が持たれている。看取り支援後はカンファレンスを開催し、本人を偲びながら振り返りの機会をもっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備え日頃より対応を話し合っている。全体会議の際など起こりえる状況について看護師にたずね実践できるようにしている。緊急時の連絡に関してもマニュアルを作成し表示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練には職員全員が参加、夜間勤務が一人な為夜間の火災を想定した通報訓練、避難誘導を行い一人ひとりが身に付けられる様にしている。また地域の消防団にも参加いただいている。	年2回の火災避難訓練は、全職員が参加し夜間想定で実施している。地元消防団とは訓練への参加協力が得られるなど心強い存在となっている。災害備蓄については、食(缶詰・レトルト品・水ほか)や発電機などリストをもとに管理している。町の防災マップは職員が目につきやすい事務所に掲示されている。	ホーム近くには河川があり土砂災害の危険もあることから、今後は運営推進会議の中でも対応を検討するなど取組が期待される。また、地域施設への避難訓練なども実施されることが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について高齢福祉課でも研修を行い職員の意識を深めるようにしている。	一人ひとりの尊重やプライバシーの確保については、研修会を通して意識強化を図っている。呼称は基本的に苗字としているが、同姓者がおられる場合は下の名前でも対応している。身だしなみやおしゃれの支援では、起床後の整髪や希望を尊重しながらも同じ衣服の着用にならないサポートにも努めている。また、敬老の日には着物をきられ大変喜ばれたようである。	入居者の使用されている車いすは大切な移動手段であり、今後は定期的な安全点検(掃除も含め)も必要と思われる。取組に期待したい。入室の際はノックの徹底について共有の機会をもたれることを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者様が思いを伝える事や、自己決定が出来るよう意図的に関り表現できるように取り組んでいる。意思表示が出来ない方も表情や反応を観察し職員全体で確認しながら希望が把握できるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状態や動きに合わせて一人ひとりの希望に沿った支援をしている。言葉で伝えられない方は日課に合わせながら表情を観察しながらその方のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみができるように配慮している。服を選べない方はローテーションにならない様に心がけている。クリームや眉墨の購入など支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前栄養士が作成した献立を参考に職員と調理担当者で入所者の好みを考えながら地産地消や季節感を大切にした献立を作成している。出来るだけ家庭的な料理を楽しんで頂ける様に努めている。	専任者を中心に三食ホームで調理され、食材は地元商店などから配達されている。ふきのとうやぜんまい、せり、たけのこなど家族等から山菜や野菜が差し入れされた際は入居者が「〇〇の料理がいいよ！」など、提案されている。また、栗の皮むきも手際よくこなされ、栗ご飯が食卓に登場している。食形態は個々の嚥下力に応じてキザミやペースト食も準備している。行事食や誕生会では希望を聞きながら準備しており、職員の出しもので賑やかに祝われている。	職員は弁当を持参し、検食者1名(早出・夜勤者)が、記録簿に記入している。今後も入居者の楽しみに繋がる食事支援の継続に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みを把握し食事量が少ない時は好みの物を提供したり、時間をおいて再度食事の提供を行っている。食事のタイミングはご本人に合わせ水分が少ない方はゼリーなど好む飲み物を提供するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きやうがいの言葉かけをご利用者の状態に合わせて行っている。義歯の状況や歯茎の状態などその都度確認し必要に応じて訪問歯科に繋げている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレで排泄が出来るように尿意・便意の無い方は定期的に声掛けを行いトイレ誘導をしている。また使用しているパットが一人ひとり合っているかコスト面にも配慮して職員間で話し合いを行っている。	自立の方の継続や個々に応じた声掛け・誘導により、一日を通し、トイレでの排泄を支援している。パットの使用も昼・夜の使い分けや大きさなど状況に応じて検討することで負担軽減に繋がっている。夜間のみ使用される3名の方のポータブルトイレは、清潔に管理されている。排便に関しては主治医と相談し薬の調整や、毎日提供する生乳も成分の濃い地元産が使用されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1人ひとりの状況に応じて主治医と相談しながら下剤の調節をしている。毎日牛乳を提供し下剤の減量に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1人ひとりの意向を第一に希望時間や順番を聞きながら対応している。拒否がある場合は無理せずご本人のタイミングを見たり、曜日の変更や職員を変えたり体調によっては清拭を行うようにしている。	入居者の希望時間や順番を聞きながら、週2回の入浴を支援している。希望は午前中が多いようである。ホームの浴槽は一般浴であり、身体状況からシャワー浴が中心になられた方には、冬場は特に温度管理や足湯、十分なかけ湯をしながら温まってもらっている。冬場は湯たんぽを全員分用意しているが、この冬は使用する機会はなかったようである。浴室内は柵も含めて清潔や整頓を心掛けている。	季節の柚子湯は数日間実施し、全員が楽しめるようにしている。今後も個々に応じた入浴の楽しみを見つけ、支援されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はご本人の生活習慣や活動状況をみながら休息を勧めている。夜間眠れない方には温かい飲み物やおにぎりを提供している。室温の調節を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとりが服薬している薬の内容など看護師より説明を受けたり、処方箋を読み直し容量や用法について理解している。症状の変化など観察し看護師へ報告し主治医と相談しながら服薬の調整をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしの中で一人ひとりの役割が出来ており継続できるよう支援している。外出や散歩など気分転換が出来るように支援しています。嗜好品や楽しみ事も希望に沿えるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の散歩やドライブなど外出支援を行っている。ドライブに出かける際はご利用者の希望を聞き自宅付近をドライブしたり大観峰へ行ったりしている。	敷地内の散歩や近隣河川の桜並木、大観峰、隣町へ大イチョウを見学するなど感染症の状況を見ながら支援している。また、出身地・自宅近くまでのドライブも行われている。家族からの要望もあり、町の商品券を使って馴染みの衣料品店で衣類購入に出かけられており、久しぶりの店主との会話を楽しみながら商品選びをされたようである。以前のような季節ごとのドライブや家族との外出、自宅への帰省など、心待ちにされていると思われる。感染症の早い終息が待たれる。	今後も外出に代わるホーム内での楽しみ事や外気浴を兼ねた身近な散歩などの継続に期待したい。家族へもあらたまった外出だけではなく身近な外出の機会についても報告することで安心や、感染症終息後の楽しみに繋がると思われる。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人でお金を持たれている方から希望があれば買い物の支援を行っている。また必要に応じて希望があればご家族の了解のもと立替払いでの買い物支援も行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を自分で利用している方もいます。電話の利用はご家族の希望もあり、家族から電話があった時だけ話して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同生活空間には季節感を取り入れた物を掲示したり、草花を飾っている。廊下には季節ごとに作成した掲示物を飾ったり、森園新聞を掲示している。	明るいリビングホールは、入居者が食事やレクリエーション、談笑など日常の殆どを過ごす場所であり、訪問当日も脳トレ作業や、地方新聞を広げる方など個々の時間を楽しまれる光景が見られた。また、一緒に作成した壁面や、ホーム新聞の掲示、散歩中に中庭で摘んだ草花を飾ることで、季節を感じたり話題に出してもらえるようにしている。コロナ感染症への対応からホーム内の掃除・換気、消毒の徹底と、ソファも以前より少なく間隔をあけており、席の配置は入居者の関係性を考慮して決定している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングではソファやその人に合った椅子を用意している。利用者様それぞれの定位置が出来上がっている。一人になりたい方は状況を見ながらソファや車いすで記録台のところで過ごして頂くこともある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様が使い慣れた家具の持ち込みをお願いし居心地よく過ごして頂ける空間づくりをしている。体の状況に応じたベッドの向きを作る事で利用者様が移動しやすい環境づくりを行っている。	家族には感染症の状況を見ながら、居室の様子を確認してもらい、自宅で使用されていた物などの持ち込みを伝えている。以前収納にはタンスを持ち込まれていたが、現在は搬入などの面からプラスチックケースが多いようである。居室入り口には表札とのれんを家族が準備され、テレビを持ち込まれた方はゆっくり見られるよりも音が流れる事で安心されるようである。中には携帯電話を使用される方もあり、充電など必要なサポートが行われている。居室内のエアコンは直接風が当たらない工夫や、感染症への対応から新たに換気扇が設置されている。	お位牌を持ち込まれた方もおられ、現在は職員がご仏飯を備え安心されている。引き続き心の拠り所となる支援の継続に期待したい。面会を控えており今後も家族の安心に繋がるような居室内の報告が期待される。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりの身体機能に合わせたベッドや家具の配置、ポータブルトイレの設置により転倒の回避に繋げている。トイレ・居室の表示など安全で自立した生活が出来るよう工夫している。		